

ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

教員氏名	石川 亮子
主な担当科目	音楽美学 B,課題研究Ⅰ,課題研究Ⅱ、Ⅲ,器楽の歴史と作品 A,鍵盤音楽の歴史と作品,原典講読研究Ⅰ,原典講読研究Ⅱ,西洋音楽史Ⅰ,西洋音楽史Ⅱ_C,西洋音楽史研究Ⅲ,西洋音楽史特殊講義,博士外国語原典研究特講Ⅱ
2024年の教育目標・授業に臨む姿勢	①明快でわかりやすく学生の興味を引き出す授業 ②公平で公正な成績評価 ③ICTを活用したオンデマンド授業の構築 ④初年次の履修者を対象とする科目の授業構築
2024年の教育に関する自己評価	①と②については、教員として常に取り組んできたことである。③については、具体的には「西洋音楽史Ⅱ」の科目に相当するが、オンデマンドの動画作成はほぼ完成してきた一方で、課題のやり取りや質問の回答とディスカッション等について、さらにやり方を検討していく必要があると感じている。それは④ともつながっており、次年度から「西洋音楽通史」が新カリキュラムのメディア授業として始まるが、初年次の学生を対象として、いかにわかりやすく効果的に学ぶことができる科目に構築できるか、集中的に取り組んでいきたいと考える。
2024年のFD活動に関する自己評価	FD全体研修会だけでなく、分科会FD研修会についても、すべて出席し、様々なコースの先生方と有意義な情報交換、意見交換ができるように務めた。
授業改善のために取り入れた研修内容	留学生を含めた多様な背景を持つ学生が学んでおり、ひとりひとりの事情を理解しながら丁寧に向き合うことを常に心がけている。また、ユニパとTeamsの活用について、様々な方法を知ることができたので、ユニパで小テストを実施する等を実施している。

2024 年度(後期)「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード:1863 教員名:石川 亮子

1) アンケート結果に対する所見

昨年度と比較してアンケートの回答率が大きく上昇し、スマートフォン等を用いたアンケート方式が学生に浸透してきたことがうかがえる。そのなかで従来みられた必修科目(「西洋音楽史Ⅰ」「器楽の歴史と作品」等)の満足度が低く、選択科目(「音楽美学」等)の満足度が高いという傾向はほとんど見られなくなった。総合的満足度が 95%を上回ったことは、きわめて喜ばしい結果である。今後も引き続き改善に努めていきたい。ただし、自由記述のなかに気になる点があったため、2)で改善方策を述べる。

2) 要望への対応・改善方策

「鍵盤音楽の歴史と作品」に、「授業内容が少し雑であった」「理解が難しかった」との自由記述がみられた。ほかの記述から留学生によるコメントであることが判明したが、当該授業は 1 年生が多く、ピアノコースを中心としつつも全コースに開かれていることから、講義内容およびレベル設定が難しい状況にある。全体として明快かつ分かりやすい講義を心がけているが、一方で高度な楽曲分析に関する知識をどのように組み込み、適切に説明していくかについては、なお検討の余地があると思われる。授業の進め方を含め、改めて精査し改善を図っていきたい。

3) 今後の課題

スマートフォン等を利用したアンケート方式が定着しつつある現状を踏まえ、今後は授業アンケートの意義を学生とより共有し、回答の質を高めていく必要があるだろう。

また、留学生の増加を含め、学生の背景が年々多様化するなかで、同一クラス内における理解度の差が大きくなっている現状は大きな課題である。誰を基準としてどのように授業を構築すべきかについて判断が難しい場面も増えているが、クラス授業であっても学生とのコミュニケーションを重視し、より適切な授業展開が可能となるよう工夫を重ねていきたい。

以上